



# みどりの風



令和6年10月25日発行

## 志をもつことは自分の生き方の羅針盤

校長 安藤 晋哉

10月残り数日で終わります。3年生は来月には三者面談が始まり、受験(検)校を決めていくことになります。家族でよく話し合い、自分らしく生活できる進路を決めてほしいと思います。

このことは、1、2年生にも関係することです。1度の人生でどのような生き方をしていくか考えることは大切なことです。学校においては学級活動の時間がその機会でもあります。また、家庭においても家族と一緒にの時間にどんな生き方が自分にとって幸せか、それぞれの考えを聞いたり、話し合ったりすることも有効だと考えます。

ここで、一つ生き方のヒントとして、次のような話がありますので紹介します。

皆さんは自分の夢や希望を考えていますか。人間は目標をもち、志を定めることで、生活の仕方や生き方がきちんと整ってくると言われています。

江戸時代末期の長州藩、現在の山口県に、吉田松陰という人物がいました。目標に向かう自分の気持ちを志とし、その志を大切にしながら、日々実行していました。そして、「志定まれば、気盛んなり」という言葉を残しました。志とは、心に決めた目標に向けて進もうとする気持ち、決心のことです。したがってこの言葉の意味は、「目標への気持ちが志としてはっきりすれば、おのずとやる気や意欲が生じる」ということです。

さらに、吉田松陰は目標を決めるだけでは十分ではない。「なぜその目標を定めるのか。その目標を達成する意味は何か。」と目標の意味を自分で明らかにしたり、「価値のあることだろうか」と自分でしっかり考えたりすることが大切と教えていたようです。つまり、「気持ちが入り、強い意志があれば、目標について志をもち、気持ちは高まり、盛んになる。そして、自分という人間の立ち位置が定まる」というわけです。



人は何かを始めようとするとき、「自分は何のために実行するのだろうか。」ふと考えるものです。勉強やスポーツ、いろいろな体験活動など日常の学校生活にその場面はいくつもありません。そして、人が行動するには、行動した結果、何が生まれるのかとも考えます。この考え方は、目標を定め、目標を達成するための計画や実行方法を作り、ワンステップずつ達成していくことになるマネジメントといえます。この志を自分で定め、実行する大切さは、幕末から明治にかけてたくさんの人々に受け継がれました。

日本の初代総理大臣であり、吉田松陰の教え子である伊藤博文も16歳くらいで自らの志を定めたとされています。

また、吉田松陰の言葉に「悔いるよりも、今日直ちに決意して、仕事を始め技術を試すべきである。何も着手に年齢の早い遅いは問題にならない。」という名言があります。志を決め、実行する行動力は何歳になってももつことができ、いつでも人間はやり直しができることも、子どもたちと一緒に考えていきたいものです。



## R6 地域が育むかごしまの県民週間「フリー授業参観」のお知らせ

11月1日(金)～7日(木)は県民週間の期間中です。

フリー授業参観を開催します。参観人数の制限もなく、事前申込みありません。ぜひ、お誘いあわせの上、参観していただければと思います。

★日時：令和6年11月1日(金)～7日(木)

(祝日を除く)の1～4校時

※正面玄関から入り、事務室前で受付を済ませてから参観してください。



## 《11月》主な行事予定

- 11/1日(金) フリー参観(県民週間)
- 1日(金) 第78回文化祭
- 7日(木) 生徒会引継総会
- 県中学校駅伝競走大会(指宿市)
- 9日(土) 3年生進路説明会、IBA1、2年
- 12日(火) 避難訓練



(現段階での予定です)

- 13日(水) 3年三者面談、1、2年教育相談
- ～22日(金)
- 14日(木) 市SC来校
- 19日(火) 第6回家庭教育学級
- 19日(火) 県SC来校
- 25日(月) 後期中間テスト(～26日)
- 27日(水) 学級生徒会、生徒会専門部長会

